

日本旧石器学会 ニュースレター 第21号

NEWS LETTER No.21

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

日本旧石器学会第 10 回大会の開催

2012年6月23日・24日、国立文化財機構奈良文化財研究所との共催により、同研究所平城宮跡資料館（奈良市）において日本旧石器学会第10回大会が開催され、総会・記念講演・一般研究発表・シンポジウムならびにポスターセッションが行われた。

総会 総会は、小野 昭会長の挨拶から始まった。今年度12月に当会結成から10年目に入り、当初200人足らずで出発した会員数も240人を超える、旧石器研究の分野としては世界でも有数の規模の学会に成長したことに触れ、建設的な総会となることを望む旨の呼びかけがなされた。

次いで、事務局から、出席者と委任状の合計が会員数の1/5以上に達し、当会会則第5条の規定に基づき総会が成立したことが報告され、事務局推薦により藤野次史会員が議長に選出された。

議事は、各委員会の2011年度活動報告と2012年度活動計画、2012年度-2013年度役員選挙結果の報告、2012年度-2013年度役員の職務分担、会則等の一部改正の順で、それぞれ報告・審議が行われ、採決により承認を得た。（役員選挙報告についてはニュースレター第20号、その他の報告・審議事項については本号3～7頁に掲載した。）

大会 小野会長からの開会挨拶として、2010年に刊行した『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器（先土器・岩宿）時代遺跡のデータベース—』（以下「DB」という。）をどのように活用すべきか、また現DBの改善すべき課題が何であるかを議論することが本大会の開催主旨である旨が示された。

記念講演 Z. タイマガンベトフ氏（カザフスタン国立大学）による「カザフスタンと中央アジアの前期旧石器の諸問題について」である。カザフスタンにおける旧石器研究の第一人者である氏は、カザフスタンの旧石器研究略史や遺跡の特質、主要な石器群の概要に触れたあと、中央アジア乾燥地帯への人類拡散が、①礫器文化をもつ集団の移住（95～85万年前）と、②ルヴァロワ・アシュール伝統をもつ集団のアジア進出（50～40万年前）の2波、認められると指摘した。

一般研究発表 工藤雄一郎会員・佐々木由香氏・米田恭子氏・桑畑光博氏らによる「宮崎県王子山遺跡から出土した縄文時代草創期の炭化植物遺存体」、中村由克会員による「中部地方における石斧（局部磨製・磨製）石材の変遷—石材の共通性と特殊性—」の2本である。各報告の内容については予稿集を参照願いたい。

シンポジウム 6月23・24日にまたがって行われた。6月23日には、当会研究企画委員会の野口淳委員長による趣旨説明に続いて、近藤康久会員による基調講演「旧石器データベース Hacks！」が行われた。DBと既存の解析ソフトウェアを利用した遺跡の存在予測モデリングについて、実際にソフトの操作を行うとともに、先史人類のニッチ・行動研究への応用の展望が示された。

6月24日には、2つのテーマに沿って、計8本の基調報告が行われた。各報告者が異なる視点から、分析・考察の実践例を交えながら、DBの活用により得られる成果と今後の課題点・展望等について示された。各テーマ・報告の題名及び報告者は次のとおりである。（報告者の敬称は省略させていただいた。各報告の内容については予稿集を参照願いたい。）

- 1 「日本の旧石器時代遺跡」データベースの成果と応用
 - 1-1 「日本の旧石器時代遺跡」データベースが明らかにしたものと明らかにすべき課題（光石鳴巳・小菅将夫）
 - 1-2 地形・地質・考古遺跡情報の連係と旧石器時代遺跡の立地・構成（野口淳）
 - 1-3 北海道における旧石器遺跡の分布と立地（高倉純・小杉康）
 - 1-4 相模野台地における黒曜石利用の時空間的変遷



写真1 大会（記念講演）会場風景

(諏訪間順)

- 1-5 九州、後期旧石器時代～縄文時代初頭の遺跡分布と立地(芝康次郎)
- 2 遺跡データベース、GIS考古学の展開
 - 2-1 ヨーロッパにおける中期-後期旧石器時代遺跡の時空間分布(佐野勝宏)
 - 2-2 縄文時代の葬制・祭祀研究におけるデータベース構築と分析手法の開発(中村大)
 - 2-3 DEMによる地形解析と遺跡間分布の検討(千葉史・横山真)

基調報告後、奈良文化財研究所で長年遺跡データベースに取り組んできた森本晋氏からコメントが寄せられた。登録するデータの単位(1レコード)を何とするか、データの精度や用語等の表記をどのように揃えるか等の課題はあるが、まずはデータベースを作ってから改良していくことが重要であるとの示唆を得た。

パネル・ディスカッション 基調講演者及び基調報告者がパネラーとして登壇し、①基調講演・報告で紹介された、DBを利用した研究実践例に関する成果と課題について、②DBについては、有効利用と併行して内容の改善を進めるのがよいと考えているが、どの部分から優先して改善に着手するのがよいか、の2点を主題として意見交換が行われた。

①に関しては、近藤会員から、講演中で紹介した遺跡の存在予測モデリングは、海外の分布調査等が十分に行われていない地域で、試掘調査等を行う前に遺跡の存在を予測する場合に効果を発揮することが補足説明された。小杉会員からは、密度地図の作成による可視化が、遺跡の分布状況を理解するツールとして有効であることが重ねて述べられるとともに、縄文時代以降の「後氷期型遺跡立地地域」と異なる分布を示すことが明らかになった北海道の旧石器時代遺跡については、自然環境等のデータとの相関を求めようとする場合に、当時の気候がどの程度の精度で復元できるかが課題である旨が述べられた。この点に関しては佐野会員からも、古環境のデータと「ネアンデルタールとサピエンス交替劇」の相関を求めようとしたときに、古気候・考古資料ともに時間の区分が粗いことが課題であるとの所感が述べられた。

また、遺跡分布のグルーピングに関する解釈に関し、中村氏から、基調報告で紹介したクラスター抽出はフリーソ

フトウェアの活用で安価に行える手法であること、小杉会員から、基調報告で紹介したカーネル密度推定法のメリットとして、出土遺物点数や遺跡規模等に応じて、プロットする個々の遺跡の「点」の重みに変化をつけることが可能である旨が紹介された。これに対し、光石、芝両会員からは、現DBには遺跡の規模等、個々の遺跡の「重み付け」が的確に行える情報は記載されていないとの指摘がなされた。現DBに時期を判断する情報がほとんど入っていないことについても、全国の石器群にあてはめることのできる統一的な尺度がないことが指摘され、会場からも基礎資料としての発掘調査報告書の必要性を改めて認識する旨の意見があった。

②に関しては、中村会員から、データベースはいろいろな人に利用されることで価値を増すものであること、DBは個々の地域の研究に利用するに際しては目的に応じたカスタマイズが必要であり、他のデータベースとリンクさせて利用すべきであること等の意見が述べられた。

このほか、当学会設立時からDB立ち上げに関わってきた稲田孝司会員から、作成者と利用者を区別しないシステム作りを目指すべきで、DB利用者がデータの出典図書に当たること、間違いを見つけたら作成者にフィードバックできる仕組みを作ることが望ましいこと、また解釈を伴う事柄をデータとして入れてしまうと使い物にならなくなるため、DBには即物的なデータだけを盛り込むよう心がけたことが述べられた。

また、DBの公開に関し、データの改定をいつ行うか(利用するデータがいつ時点のものか)を明確にすることが必要であることや、現在のDBの掲載内容のみを限りは著作権等の問題は小さいと思われ、積極的な公開が望まれること、DBの利用拡大を促すために、活用事例についても学会HP等で紹介できると良い、等の意見が交わされた。

最後に小野会長から、今大会での議論をもとに、現在のDBを利用した研究の実践や、DBの改善について、積極的に取り組むことが望まれる、との総括がなされ、閉会した。

ポスターセッション 平城宮跡資料館企画展示室において、9本のポスター発表があり、コアタイム(6月24日12時から13時)を中心に、発表者と来場者の中で熱心な意見交換が行われた。内容については予稿集を参照願いたい。

(ニュースレター委員沖記。写真は本大会実行委員会提供)



シンポジウム討論風景



ポスターセッション風景

2011 年度委員会報告

総務委員会 2011 年度の活動は次の通り。

- (1) 2011 年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整 (APA 延期に伴い役員会と同日開催)
(総会:2011 年 6 月 25 日 首都大学東京 1 号館 110 号教室)
- (2) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整 (APA 延期に伴い役員会と同日開催)
(役員会:2011 年 6 月 25 日 首都大学東京 1 号館 110 号教室)
- (3) 会務に関する連絡・調整
- (4) 会誌 (『旧石器研究』第 7 号), ニュースレター (第 18・19・20 号), 各種学会連絡文書の発送
- (5) 日本考古学協会総会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布
(図書交換会 2011 年 5 月 29 日, 会誌発送 2011 年 7 月 4 日)
- (6) 新入会員の入会・住所変更等に関する事務
2011 年度 (2012 年 3 月 31 日現在) の新入会員は 6 名, 退会者は 3 名。2012 年 4 月 1 日現在の会員数は 245 名。
- (7) 2012 年度総会会場となる奈良文化財研究所との調整 (研究企画委員会連携)
- (8) 学会ホームページの更新に関する事務
- (9) 研究グループ支援制度に関する事務
- (10) 第 4 回アジア旧石器協会 (APA) 日本大会に関連する

る事務

(11) 2012 年度 - 2013 年度役員選挙に関する事務
会計委員会 2011 年度決算は下表の通り。会費収入の面では, 未納会費が多く, 学会の運営上問題である。その他の収入に関しては, データベース (以下「DB」という。) が完売した。支出については概ね予算額の範囲内である。なお, 2012 年 5 月 27 日, 日本考古学協会研究発表会場において, 監査委員による会計監査を受け, 会計が適正に処理されている旨の報告を受けた。

会誌委員会 2011 年度の目標は, (1) 学術的水準の高い, 刺激的な論考が並ぶ, より「面白い」誌面にすること, (2) 日本考古学協会図書交換会に刊行を間に合わせることであった。この目標を達成するため, 会員諸氏の自由な意志に基づく投稿とあわせて, 当該年度シンポジウムの発表者, さらには会誌委員の周辺の会員に投稿を促すこと, また同時に編集や査読のプロセスを整理しつつマニュアル化できることはマニュアル化し, 委員相互の負担を緩和しつつ効率的な会誌編集を行うことを計画した。

結果, (1) については昨年度同様, 様々な地域や視点による論文を掲載することができた。また投稿規定及び執筆要項の改訂を実施し, 会誌委員の作業マニュアルを整備した。ただし (2) は, 印刷業者の作業遅延のために日本考古学協会図書交換会に間に合わず, 6 月 22 日付けの刊行となった。

会誌第 8 号の内容は, 総説 (依頼原稿) 1, 総説 1, 原著論文 6, 研究ノート 1, 資料紹介 3, 書評 1, および会則・

日本旧石器学会 2011 年度決算

単位: 円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 会費収入				07 年度 1 名, 08 年度 2 名, 09 年度 8 名, 10 年度 26 名, 11 年度 169 名, 12 年度 11 名, 13 年度 2 名, 14 年度 1 名, 15 年度 1 名 (合計 221 件)
会費収入	1,665,000	1,105,000	-560,000	
2 その他の収入				
会誌頒布代金	320,000	306,400	-13,600	会誌 7 号 71 部, バックナンバー 15 部
シンポジウム予稿集頒布代金	150,000	36,300	-113,700	予稿集バックナンバー 28 部
DB 頒布代金	62,400	62,400	0	12 部 (六一書房のみ)
雑収入	0	16,220	16,220	APA 大会経費の精算戻し金
前期繰越収支差額	2,129,870	2,129,870	0	
小計①	4,327,270	3,656,190	-671,080	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	50,000	6,000	-44,000	考古学協会図書交換会卓代
旅費交通費	100,000	0	-100,000	
通信運搬費	200,000	196,623	-3,377	会誌・ニュースレター送料, 諸通知, 役員間連絡 他
消耗品費	50,000	17,072	-32,928	事務用品, コピー 他
印刷製本費	750,000	741,000	-9,000	会誌, ニュースレター 3 件 他
諸謝金	30,000	20,000	-10,000	
委託費	63,000	63,000	0	HP 管理料
アジア旧石器協会日本大会経費	800,000	518,420	-281,580	海外研究者 9 人の大会参加費, 巡検露頭掘削費
研究グループ運営経費	100,000	30,000	-70,000	1 件 (沖縄更新世人類研究グループ)
2012 年度シンポジウム開催準備費	110,000	0	-110,000	
雑費	25,000	22,580	-2,420	雑費 (振替, 銀行手数料等)
予備費	2,049,270	0	-2,049,270	
小計②	4,327,270	1,614,695	-2,712,575	
次期繰越金小計①-小計②	0	2,041,495	2,041,495	

会員名簿等からなる。総頁数は195頁である。

【総説(依頼原稿)】A.P. デレヴィアンコ(佐藤宏之解説)
「人類の起源とユーラシア大陸における人類の居住—解剖学的現生人類の形成—」

【総説】山崎真治 藤田祐樹 片桐千亜紀 土肥直美 米田穰
「日本の古人骨研究と更新世人類へのアプローチ—古人骨と考古遺物に基づいた高精度な人類史復元に向けて—」

【原著論文】加藤真二 李占揚「河南省許昌市霊井遺跡の細石刃技術—華北地域における角錐状細石核石器群—」, 佐野勝宏 傅田恵隆 大場正善「狩猟法同定のための投射実験研究(1)—台形様石器—」, 岩瀬彬「最終氷期最盛期の本州東半部日本海側地域における石器使用の特徴—杉久保石器群に伴う彫器の使用痕分析—」, 山岡拓也「道具資源利用に関する人類の行動的現代性—武蔵野台地の後期旧石器時代前半期資料の含意—」, 中村雄紀「愛鷹・箱根山麓の後期旧石器時代前半期前葉の石器群の編年」, 橋詰潤「両面加工尖頭器の欠損について」

【研究ノート】春成秀爾 小林紘一 藤根久 ザウリ・ロムタティゼ 伊藤茂 尾寄大真 山形秀樹 廣田正史 イネザ・ジョルジョリアーニ 丹生越子「明石市西八木層出土遺物と炭素14年代測定」

【資料報告】加藤博文 長沼正樹 鈴木建治 アスタホフ S.N. マカロフ S.S.「ロシア連邦トゥーヴァ共和国採集の旧石器資料」, 赤井文人 馬籠亮道「鹿児島県帖地遺跡の接合資料」, 野口淳 グーラム・M・ヴィーサル カシード・H・マッラー ニローファー・シェイフ 近藤英夫「パキスタン・イスラム共和国シンド州ヴィーサル・ヴァレー地区の中期・後期旧石器時代資料」

【書評】森先一貴「堤隆著『最終氷期における細石刃狩猟民とその適応戦略』」

【その他】会則・規定関係, 役員名簿, 会員名簿等

なお, 会誌編集作業を通じて出てきた問題点は次の通り。

- ・昨年同様, 会員の自由意志に基づく投稿の数がとても少なかった。会誌委員では、「面白い」誌面を追求することでこの問題を自然に解消することを目指したいが, 一方で学会誌への自由意志に基づく投稿という制度そのものが会員にまだ浸透していないのではないかという印象を持つ場面が少なからずあった。
- ・質の高い査読を堅持しつつ, 投稿論文を5月刊行に余裕を持って間に合わせるためには, 前年の11月末日までに投稿されることが必要であるが, ほとんどの投稿は年が明けてからであった。年度末の業務量が膨大な時期に会誌委員の作業量が一時期に集中し, 結局は会誌委員と査読を引き受けてくださった方々が多大な負担を強いられる結果となっている。投稿は常時受け付けていること, また11月までに投稿されることが望ましいことをさらに周知徹底していきたい。
- ・旧石器学会発足の理念を考えると, 関連分野の論文の自由意志に基づく投稿が少ないことが憂慮される。

ニュースレター委員会 ニュースレター第18号, 第19号, 第20号の編集・発行を行った。主な内容は下表のとおり。

第18号(2011年8月発行) 2011年度日本旧石器学会総会の開催(報告), International Symposium Characteristic features of the Middle to Upper Paleolithic transition in Eurasia: development of culture and evolution of Homo species(報告), 2010年度委員会報告, 2011年度活動計画, 日本旧石器学会研究グループ内規について, 2011年度役員会(役員紹介), 関連学会情報(第37回九州旧石器文化研究会大分大会, 第28回中・四国旧石器文化談話会, 信州黒曜石フォーラム2011), おしらせ(旧石器研究原稿募集・第4回APA参加登録・会費納入のお願い)

第19号(2012年1月発行) Dual Symposia Symposium on the Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia & The 4th Annual Meeting of the Asia Palaeolithic Association (APA)(報告), 施設紹介(遠軽町埋蔵文化財センター), 役員選挙のお知らせ, 2012年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムの御案内, 2011年度委員会中間報告, 第37回九州旧石器文化研究会開催報告, 特別講演会開催のお知らせ, おしらせ(会費納入のお願い・住所変更のお願い)

第20号(2012年4月発行) 2010~2011年の国内調査動向, 2012年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウム開催要項の御案内, 研究グループ2011年度活動報告, 役員選挙結果のお知らせ, 講演会(ヨーロッパ旧石器時代洞窟壁画)開催報告, 第28回中・四国旧石器文化談話会開催報告, 岩宿フォーラム2011開催報告, お知らせ(HPアドレス変更・会費納入のお願い・編集後記)

渉外委員会 主としてAPAに関する渉外・連絡・調整・準備を行った。具体的な内容は次の通り。

(1) 2011年度第4回APA日本大会開催のために, 連絡・調整・準備を行った。本大会は, "The Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia" とともに Dual Symposia の形で, 国立科学博物館と共同主催した。渉外委員全員が実行委員として参加した。詳細は実行委員会報告を参照願いたい。

実行委員会: 小野昭(委員長)・鈴木美保(事務局長)・阿子島香・出穂雅実・海部陽介・加藤真二・門脇誠二・佐藤宏之・諏訪間順・野口淳・宮田栄二・山岡拓也

(2) 2012年度の第5回APAロシア・クラスノヤルスク大会に関する連絡・調整を行った。本来ならば次期渉外委員会マターであるが, クラスノヤルスク大会の会期が7月5日から13日であり, その登録が3月15日に設定されたため, 小野会長の判断のもと, 現渉外委員会がこれを担当することとした。現在までのJPRAからの参加登録者は以下の通りである。

代表者: 小野昭(JPra 会長, APA 副会長), 佐藤宏之(渉外委員長・APA 執行委員), 加藤真二(渉外委員・APA 執行委員) 一般参加: 長井謙治会員, 役重みゆき会員, 大谷薫会員

(3) ロシア・アルタイで開催された国際シンポジウム "Characteristic features of the Middle to Upper Paleolithic transition in Eurasia: development of culture and evolution of Homo species" (2011年7月4日~10日) に JPRA から代表を派遣するよう要請されたため, 佐藤宏之, 海部陽介

、山岡拓也の3会員を派遣した。詳しくは、山岡会員の報告(ニュースレター第18号掲載)を参照願いたい。

第4回アジア旧石器協会(APA)日本大会実行委員会 第4回APA年次大会は、2011年11月26日~12月1日の日程で国立科学博物館との共催でシンポジウム「アジアにおける現代人的行動の出現と多様性」と同時にDual Symposiaという形式で開催された。日本旧石器学会2011年度総会と合わせて6月開催の予定が、東日本大震災の影響を受けて5カ月延期となったが、無事終了した。

プログラム

Dual Symposia : Symposium on the Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia & The 4th Annual Meeting of the Asia Palaeolithic Association (APA)

11月26日(土) 受付、一般講演(ポール・メラーズ「現代人的行動の起源：考古学的証拠と行動学的解釈」、ミハイル・V・シュニコフ「人類の起源とユーラシア大陸における人類居住-解剖学的現代人の形成」)、歓迎会

27日(日) APA年次大会(口頭・ポスター)、APA役員会

28日(月) 巡検(沼津市文化財センター)

29日(火) シンポ1日目(口頭・ポスター)

セッションⅠ：拡散と移動：化石形態学・遺伝学的証拠

30日(水) シンポ2日目(口頭)

セッションⅡ：北・東アジアの現代人的行動

12月1日(木) シンポ3日目(口頭)、お別れ会

セッションⅢ：南・東南アジアの現代人的行動

参加人数 一般講演120名(一般50名、シンポジウム参加者70名)、巡検85名(海外参加54名)、シンポジウム187名(APAのみ参加35名、海外参加59名うち30名招待講演者)、懇親会welcome155名Farewell123名
内容の詳細はニュースレター第19号を参照願いたい。

研究企画委員会 2010~11年度は、刊行された旧石器時代遺跡データベース(『日本列島の旧石器時代』：以下DB)の活用を中心とする活動方針を定めた。2011年度は第4回APA大会のため、日本旧石器学会としてのシンポジウムを行わないことが定まっていたので、2012年度の大会時にシンポジウムを開催することとした。2010年度に引き続きデータベース委員会と連携し、また本委員会でも新たに1名の委員を委嘱してシンポジウムの構成を検討した。2011年4月までには、開催地を独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所とすることが決まった。2011年12月にはシンポジウムの方向性を定め、発表者の選定・打診とプログラムの確定を進めた。2012年3月にはシンポジウムの詳細が決定し、また記念講演、一般研究発表などの大会行事についても準備を進めることができた。

データベース委員会 2010年に『日本列島の旧石器時代遺跡』として日本全国のDBを刊行し、当初の目的は達成されている。しかし、データには修正すべき点が多くあることも事実であった。そのため、2011年5月には、以前御協力いただいた全国の協力者に再度、データの修正をお願いした。当初、10月末を目途に修正をお願いしていたが、残念ながらいまだに数県のみ修正データが集まったにすぎない。

DBの活用については、研究企画委員会と協力し、DBに基づいた遺跡分布や立地をテーマとしたシンポジウムを企画した。

DBを単なる集成に終わらせることなく、今後の旧石器時代研究において有効に活用されることが望まれる。当委員会としては、データの内容や活用方法の検討を進め、DBをより充実させ、今後より効果的に利用が図られるようにしたいと考えている。

いずれにしても、全国の研究協力者の御尽力によるところが大きく、より良いデータベースの構築がその様な御協力に報いることになると考えている。

Dual Symposia 会計報告

単位：円

収 入						
内 訳	登録料	巡検	旧石器学会	万博基金	学振助成金	総 計
金額	2,180,000	622,000	518,420	202,000	1,999,533	5,521,953
支 出						
費 目	登録料	巡検	旧石器学会	万博基金	学振助成金	計
招待後援者滞在諸費用			225,000	202,500	667,493	1,094,993
会場費					97,650	97,650
巡検トレンチ掘削費			293,420			293,420
巡検食費他		525,114				525,114
印刷・製本費		93,198			736,890	830,088
懇親会費(2回)	1,211,305					1,211,305
シンポ昼食(4回)	557,200					557,200
茶菓代	151,399	46,637				198,036
記念品代	137,393					137,393
通信・運搬費	19,270				201,500	220,770
消耗品費	7,388					7,388
謝金					296,000	296,000
その他雑費	20,625	15,751				36,376
支出計 ①	2,104,580	680,700	518,420	202,500	1,999,533	5,505,733
収入計 ②	2,180,000	622,000	518,420	202,000	1,999,533	5,521,953
②-①	75,420	-58,700	0	-500	0	16,220

日本旧石器学会へ

入会審査委員会 会則・運営細則にもとづき「論文・研究ノート・調査報告等を公表した者」という基準により、入会審査を行った。2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）の新入会員は次の6名である（敬称略・都道府県別）。

神田和彦（秋田県） 山田昌功（群馬県） 春成秀爾（千葉県）
近藤康久（東京都） 片桐千亜紀（沖縄県） 藤田祐樹（沖縄県）

広報委員会 HPを通じ、学会活動報告、関連情報、ニュースレターなどを広報した。また、日本の旧石器遺跡などの読めるコンテンツを追加した。また、普及講演会として、東京藝術大学美術研究科リサーチセンターの五十嵐ジャンヌさんによる講演会「ヨーロッパ旧石器時代の洞窟壁画」を明治大学黒耀石研究センターと共催し、多くの聴講者の参加を得た。旧石器時代の教科書掲載問題については、新年度の公開に向け、HPの子供向け旧石器時代解説コンテンツを準備した。

2012 年度活動計画

総務委員会 経常的な会務に加え、次の諸課題に取り組む。

- (1) 学会 10 周年事業に関すること（学会シンボルマークの公募、学会奨励賞の制定ほか）
- (2) 役員任期の見直しに関すること
- (3) 会員メーリングリストに関すること

会計委員会 予算は下表の通り。次の APA 日本大会開催に備えた積立を行うこと、会誌・ニュースレター発送作業の外注

化を検討していることから通信運搬費を増額することが特徴である。

会誌委員会 さらに充実した第9号の刊行を実現するため、以下の3点を2012年度の主な活動計画としたい。

- (1) 学術的水準の高い論考が並ぶ、より「面白い」誌面になるよう積極的に活動を行う。
- (2) 日本考古学協会図書交換会に刊行を間に合わせる。
- (3) 関連分野の論文投稿数を増やすべく具体的な対策の検討を開始する。

ニュースレター委員会 ニュースレター第21号、第22号、第23号の編集・発行を行う。主な内容は下表のとおり。

第21号（2012年8月発行予定）2012年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウム開催報告、2011年度委員会活動報告、2012年度活動計画、おしらせ

第22号（2012年12月発行予定）第5回アジア旧石器協会ロシア大会報告、委員会活動中間報告、関連学会情報、おしらせ

第23号（2013年4月発行予定）2012年度国内調査研究動向、2013年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウム開催要項の御案内、研究グループ2012年度活動報告、関連学会情報、お知らせ

渉外委員会 APAに関する渉外・連絡・調整・準備等が主たる活動となる。また各国から送付される学会・シンポジウム等の諸連絡の調整を行う。具体的内容は次の通

日本旧石器学会 2012 年度予算

単位：円

収 入				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,225,000	1,665,000	-440,000	会員 245 名 × 5,000 円
2 その他の収入				
会誌頒布代金	320,000	320,000	0	40 部 × 4,000 円 = 160,000 円、バックナンバー及び委託販売分 160,000 円
シンポジウム予稿集頒布代金	200,000	150,000	50,000	会員 50 部 × 1200 円 = 60,000 円、一般 50 部 × 1500 円 = 75,000 円、バックナンバー及び委託販売分 65,000 円
D B 頒布代金	0	62,400	-62,400	
前期繰越収支差額	2,041,495	2,129,870	-88,375	
小計①	3,786,495	4,327,270	-540,775	
支 出				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	50,000	50,000	0	役員会会議費、総会会場設営費 他
旅費交通費	150,000	100,000	50,000	シンポジウム旅費補助、国際会議旅費補助 他
通信運搬費	300,000	200,000	100,000	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、校正連絡 他
消耗品費	50,000	50,000	0	事務用品、コピー 他
印刷製本費	1,360,000	750,000	610,000	会誌、シンポジウム予稿集、ニュースレター 3 通、パンフレット 他
諸謝金	100,000	30,000	70,000	記念講演講師謝金、公開講座講師謝金、他
委託費	63,000	63,000	0	HP 管理委託
APA 日本大会経費	0	800,000	-800,000	
次回 APA 日本大会経費積立	200,000	0	200,000	
研究グループ運営経費	100,000	100,000	0	
2013 年度シンポジウム開催準備費	50,000	110,000	-60,000	実行組織会議費、事前検討会経費 他
雑費	25,000	25,000	0	雑費（郵便振替及び銀行振込手数料他）
予備費	1,338,495	2,049,270	-710,775	予備費 他
小計②	3,786,495	4,327,270	-540,775	
小計①－小計②	0	0	0	

り。

(1) 引き続き第5回 APA クラスノヤルスク大会(7月5日～13日)の連絡・調整を行う。

なお、その際に開催される APA 執行会議での執行部選挙に、JPRA の APA 代表として、渉外委員・同委嘱委員の阿子島香・加藤真二(執行委員候補)、佐藤宏之(副会長候補)を推薦する。

(2) 第6回 APA は未定である(中国か)が、そのための連絡・調整を行う。

研究企画委員会 本学会第10回大会を、2012年6月23・24の両日、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所平城宮跡資料館で開催する。プログラムの概略は次の通り。

6月23日 総会(13:00～14:00)、記念講演(14:15～15:15)、一般研究発表(2本、15:30～16:30)、シンポジウム「旧石器時代遺跡・立地・分布論の新展開」趣旨説明・基調講演(16:35～17:30)、懇親会

6月24日 シンポジウム 基調報告8本・コメント・パネルディスカッション(9:00～15:30)

ポスター発表(9本) 6月23・24日(コアタイムは24日12:00～13:00) 会場:平城宮跡資料館企画展示室、

同大会以降の活動計画については、2012年度の新役員・委員会体制のもとで検討することとし、必要事項について引継ぎを行う。

データベース委員会 委員会の活動は新委員に委ねられることとなるが、その方針と問題点に触れておく。

(1) DBの修正作業 現在進行している作業を、全国の協力者とともに進める。また、現状で未着手となっているデータの追加についても、時期をみて開始する。

(2) シンポジウムの開催 シンポジウム開催の成果をうけ、研究企画委員会と協力しながら、DBの内容の検討を進め、今後のDBの運営及びその内容の方向性を見定める。

(3) オンライン化による公開 インターネットでのDB公開の方向性を模索するとともに、実務的な公開の方法を検討する。

(4) 著作権問題の整理 引用方法や著作権の問題を整理し、一定の基準の下に資料活用の促進を図る。

その他、実務上では、全国の協力者と連携し、継続的な活動ができるような基盤作りも必要であると考えられる。

広報委員会 本学会や旧石器時代の周知・PR、教科書問題への取り組み、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、次の活動を行う。

(1) 普及講座を開催し、本学会や旧石器時代の周知・PRに努める。

(2) HPでは、単に情報提供だけでなく、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。

(3) 教科書問題の対応として、HPに子供向けの旧石器時代解説コンテンツを公開する。また、あわせて旧石器時代を紹介した解説パンフを印刷する。

なお、本学会創立10周年を記念して、学会シンボルマーク制定等を検討事項とする。

会則等の一部改正について

役員交替に伴う事務局の移動及び沖縄県在住者の会員加入に伴う役員選出地区名称の整理のため、当会会則の付則及び当会役員・会計監査委員・顧問選出規定を改正した。

改正部分は次のとおりである。

(条文等の変更箇所に下線を付した。)

日本旧石器学会会則及び運営細則

会則

(改正部分がないため省略)

付則

1. 会費は前納制で年額5000円とする。

2. 本会の事務所は、東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市教養学部 歴史・考古学分野に置く。

運営細則

(改正部分がないため省略)

(2003年12月20日制定・2008年6月21日改定・2012年6月23日改定)

日本旧石器学会役員・会計監査委員・顧問選出規定

(1から8 改正部分がないため省略)

9. 北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州・沖縄の7地区の上位得票者から役員を1名選出し、他15名を上位得票数によって役員とする。

(10から12 改正部分がないため省略)

この規定は2004年度より実施する。なお、この規定の変更は総会の議決による。

2012年度役員会

(任期 2012年4月1日～2014年3月31日)

会長:小野 昭

副会長:麻柄一志

総務委員会:*伊藤 健 山岡拓也 西井幸雄(委嘱)

会計委員会:*岩谷史記 麻柄一志 越知睦和(委嘱)

会誌委員会:*絹川一徳 門脇誠二 藤田 尚

吉川耕太郎 岩瀬 彬(委嘱)

ニュースレター委員会:*谷 和隆 沖 憲明

高倉 純

渉外委員会:*阿子島香 加藤真二 絹川一徳

佐藤宏之(委嘱)

研究企画委員会:*諏訪問順 鎌田洋昭 芝康次郎

高倉 純 藤田 尚

データベース委員会:*鹿又喜隆 軽部達也

入会審査委員会:*笹原芳郎 麻柄一志

広報委員会:*堤 隆 丹羽野裕

会計監査委員:木崎康弘 宮田栄二

顧問:*赤羽貞幸

(*は委員長)

関連学会情報

第16回石器文化研究交流会山梨大会

石器文化研究会は2012年9月29日(土)・30日(日)に、「礫群の初源とその様相」をテーマとしたミニシンポを開催します。基調講演は、「礫群研究の重要性」と題して鈴木忠司さんにお話しいただきます。また、各県の礫群出現時期とその様相について発表・討論を行い、各県の旧石器時代遺跡の最新情報の発表と出土石器を展示します。

詳細は石器文化研究会HP (<http://www.sekki.jp/>) をご覧頂き、奮ってご参集下さい。

2012年度岩宿フォーラム/シンポジウム

岩宿フォーラムは、日本の旧石器時代研究の出発点である『岩宿』で毎年開催される、岩宿時代を中心とした学術的な行事です。そのうちのシンポジウムは、北関東地方の細石刃石器群、特に北方系の細石刃文化を中心に研究・討論します。また、岩宿博物館が開催する関連企画展『石器が動く、時代も動く』展示資料を手にとって観察できる資料見学も予定しています。

テーマ：『北関東地方の細石刃文化』

日時：2012年11月3日(土)・4日(日)

会場：笠懸公民館1階 交流ホール(シンポジウム)、岩宿博物館(資料見学)

第38回九州旧石器文化研究会佐賀大会

北部九州では初めてといえる一次堆積のAT層を挟む良好な石器群が検出された佐賀県地蔵平遺跡の調査成果を起点に、九州各地のAT前後の石器群の変化の有無や内容を探ります。

開催日：2012年11月10日(土)・11日(日)

会場：佐賀市立富士生涯学習センター(佐賀市富士町古湯)

詳細は、ハカタントロプス(福岡旧石器文化研究会)HPに掲載予定です。

『交替劇』国際シンポジウム

“2012 International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning”

主催：科学研究費補助金新学術領域研究「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究」(領域代表者：赤澤威)

開催日：2012年11月18日(日)～24日(土)

会場：学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

詳細はHP (<http://www.koutaigeki.org/>) を御覧ください。

信州黒曜石フォーラム2012「黒曜石研究は考古学に何をもたらすのか」(第一報)

日時：2012年12月2日(日)10:30～、会場：諏訪市博物館、演者・発表者は以下の通り。基調講演：望月明彦先生、基調報告①：隅田祥光氏、②：長井謙治氏、③：岩瀬彬氏、④村田弘之氏、⑤大竹幸恵氏、※詳細は今後、黒曜石研究センターホームページ (<http://www.meiji.ac.jp/cols/>) に掲載予定です。

おしらせ

おわび

ニュースレター20号の国内調査動向の記載について下記のとおり誤りがありました。

関係者各位に記してお詫び申し上げます。

1ページ右段、16～17行目

(誤)石器集中は6～7か所確認され、8,350±70yBP(非較正)の年代が出されている。

(正)石器は長軸9m、短軸5mの範囲で出土し、その中に6～7か所の密集部がある。18,250±70yBP(非較正)の年代が出されている。

会費納入のお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されているため、会費は原則前納とさせていただきます。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の支払い手続きをなされますようお願い申し上げます。年会費は5,000円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。

住所変更のお願い

転居をされた方は必ず住所変更の手続きをお願いいたします。事務局までメール等でご連絡ください。

『旧石器研究』原稿募集について

会誌『旧石器研究』第9号の原稿を募集しています。投稿を希望される会員は、会誌第8号の末尾に掲載している投稿規定及び執筆要項に従って御投稿ください。編集の都合上、投稿希望者は執筆者氏名及び仮のタイトルを予め御連絡ください。なお、『旧石器研究』第9号の刊行は2013年5月を予定しています。投稿希望者は2012年11月末日までに御投稿ください。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

連絡・問い合わせ先：〒540-0006 大阪市中央区法円坂一丁目1-35 アネックスパル法円坂6階(公財)大阪博物館協会 大阪文化財研究所 絹川一徳気付 日本旧石器学会会誌委員会 E-mail: jpra.ecmmember@gmail.com

日本旧石器学会ニュースレター 第21号

2012年8月20日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会
谷和隆・沖憲明・高倉純

発行：日本旧石器学会

事務局：首都大学東京 山岡拓也

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市教養学部歴史・考古学分野内

E-mail jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>